

二二五二番

橘たちばなを 守部もりへの里さとの 門田かどた早稻わかせ 刈かる時とき過ぎぬ
来こじとすらしも

二二五三番

秋萩あきはぎの 咲さき散ちる野辺のへの 夕露ゆふつゆに 濡ぬれつつ来きま
せ 夜よはふけぬとも

二二五四番

色付いろづかふ 秋あきの露霜つゆしも な降ふりそね 妹いもが手本たもとを
まかぬ今夜こよひは

二二五五番

秋萩あきはぎの 上うへに置おきたる 白露しらつゆの 消けかもしなまし
恋こひつつあらずは